

人権協シンボルマーク



いろんな人と人とのつながり、
ふれあいを美浜のMと波で
イメージしました。

ふれあい

美浜町人権尊重啓発協議会会報

第70号

発行：令和2年2月21日
(年3回発行)

編集：人権協広報部会

連絡先：美浜町生涯学習課

TEL 32-1212

FAX 32-1222

E-mail: jinkenkyo@town.fukui-mihama.lg.jp

人権のつどい2019

12/sat
7

12月7日に、生涯学習センターなびあすで「人権のつどい2019」として、半崎美子さんによるトーク&ライブを開催しました。

半崎さんは北海道出身のシンガーソングライターで、全国のショッピングモールをまわって活動されており「ショッピングモールの歌姫」と呼ばれています。

講演会では、半崎さんがショッピングモールをまわる中で感じたことなどを対話形式で紹介していました。ショッピングモールは、日常の空間に根付いた場所で色々な人と出会うこと



ができる場所。言葉にできない想いや涙にならない悲しみ、苦しみ、葛藤などをサイン会を通して分かち合え、それが自身の学びや気づきにつながると話されました。

また、ライブでは「お弁当ばこのうた～あなたへのお手紙～」や「桜～卒業できなかったきみへ～」などが披露され、その静かで透き通った歌声に約400名の参加者は静かに聞き入っていました。

「ライブやサイン会が終わったあと、最後に残る気持ちは感謝の気持ち。世の中が人を隔てず、感謝する気持ちを常に持つ世の中であれば、分かち合ったり共有することができる。年齢も障がいも関係なく生きていける世の中であってほしい。誰かの言葉や優しさがあふれてくるそんな世の中になってほしい。生きている中で苦難や乗り越えなくてはいけない中で、自分を乗り越えたところで最後に残る気持ちは感謝。生きていればいるほど、感謝の根は深く伸びていく」と語った後、最後に「感謝の根」を歌い、惜しめない拍手の中、人権のつどいは大成功に終わりました。

「社会のタイミングを気にせず助走を続ける」という歌詞が印象に残ります。ありがとうのあふれる美浜町になったら差別もなくなるような気がします。すばらしいイベントでした。

人権について半崎美子さんの詩がぴったりだった。CDも買い、妻と車の中でズーッと聞いていた。

歌で泣けるなんてこの年になるまでありませんでした。すばらしい方を招いて下さってありがとうございました。

数年前から半崎美子さんのファンで今回とても感動しました。生きていくこと感謝すること、人として再度学ばせていただきました。そして、ホワイエにあった美浜町の人権講座の活動の様子は積極的な活動で素晴らしいと思いました。美浜町は意識が高いと思います。ありがとうございました。

すごい声量、歌唱力に圧倒されました。歌詞の一つ一つが心に浸み、心に刻みこまれました。明日へのエネルギーとなりました。人間いろいろな“欲”はいくつになってもありますが生きていくこと、今元気に生きられていることに感謝したいと思います。ありがとうございました。

第5回町民人権講座

あさのあつこさん

10/24 thu



今回の講座では、「バッテリー」や「No.6」等の著者である、あさのあつこさんをお招きして、「人と物語と」という演題でご講演いただきました。

あさのさんは、まず、自身の執筆活動に触れ「私にとって、物語を書くということは、人間を書くということ。こういう人を書きたい、こういう人を知りたいといった思いから執筆が始まり、小説の舞台等はそうした人物に付随して後から決まってくるのです」と話されました。

また、近年、SNS上でのトラブルが若者の間で多発していることについて「大人世代も未経験のゾーンに入っており、今後どうなるかは誰にもわからない」と前置きしながら「大事なものはバランス。顔の見えない相手だからこそ言える表現もある一方で、直接表情を見たり、声を聞いたりしながら話すことも大事」と自身の見解を述べられました。

そのほか、他者の人権を尊重するうえで認識すべきこととして「自分が他者に対して常に正しい訳ではないということを、常に頭の片隅に置いておく必要がある。人の権利を認めるということは、自分の弱さや愚かしさ、醜さ等を認めるということにつながる。自分のことを偉いと思い、一人で上に立てると思っている者が、他者の人権を尊ぶことなどできない」と話されました。

あさのさんは、講演の最後に「いろんな人間を見てきて、今を生きている人間ほど面白いものはないと感じる。皆さんそれぞれが人生を面白がって愛おしんでほしい。それができて初めて、他人の生き方や一緒に過ごす時間を愛おしむことができる」と、自身の人生を大事にすることの重要性を語りました。

●「言葉で思いを100%伝えることはできない」という言葉が印象に残った。それでも言葉は大切だということもすぐ伝わった。いい話ができる人は聞き上手でもある。ということはこれからの生活に生かし意識していくお話だった。物語を通してさまざまな人を知ることのすばらしさを感じた。

●ことばのもつ力について実になまなましく語っていただき(うまく引き出していただき)大変参考、勉強になりました。人間の多様性、おろかさ、みにくさから目をそむけずにしっかり見つめようとする姿勢に大変感銘を受けました。ありがとうございました。

●今後自身の中で、誰かを否定するのではなく舌(話す力)、耳(聴く力)をき

たえることで、自分や他者の魅力を引き出せるようにしていきたいと感じた。また本をもっと読むことで色んな感情を知ったり、いろんな感情を想像できたりする人間になっていきたいと感じた。

●自分の人生をいとおしんでこそ、他人を大切にできるという言葉に感動いたしました。

人権コラム

人とのつながり

あなたは今『一人』ですか。それとも『独り』ですか。

国勢調査によると、2015年には、全世界の34.5パーセントの方が一人暮らしであることが分かった。また、2040年には、全世界に占める一人暮らし世帯の割合が39.3パーセントに達するとみられており、特に65歳以上の約4人に1人にあたる22.9パーセントの方が一人暮らし世帯になると予測されている。

私は、人がほかの動物と違う点はコミュニケーション能力にあると考えている。人は昔から集団で生き、言語やジェスチャー、文字など様々なコミュニケーションツールを作り上げてきた。近年、SNSなどで常に人とつながることができるようになり『独り』になることは少なくなかった。文字だけのやり取りで、相手の心境を読み取ることができずネットいじめなどのトラブルに発展するといった事例はあるものの、地域ごとのコミュニケーションに活用することで、高齢者の健康状態の確認の助力にもなることから、『独り』にならないことのメリットは非常に大きい。

『一人』暮らし世帯の増加が避けられない中で、住みやすい地域生活を目指すために、地域ごとに人と人のコミュニケーションを大切にし、『独り』というものをつくらないような地域づくりに貢献したいと考える。

今年、東京オリンピックの開催が予定されている。日本と世界とのつながりを深めることに注目したい。

第6回町民人権講座 松村 元樹 さん

11/wed
15



松村さんは、(公財)反差別・人権研究所みえで長年インターネットの人権に関する問題と向き合われてきました。「インターネットと人権」という演題でご講演いただきました。



講演では、インターネットにはびこる部落差別問題について、さまざまな統計データを基にご説明いただきました。特に印象に残った点は、インターネット検索からいくつかのキーワードを入力するだけで、誹謗中傷の書き込みが見つかるということでした。大変驚くとともに、一度投稿されると書き込みが簡単には消せない恐ろしさを痛感しました。

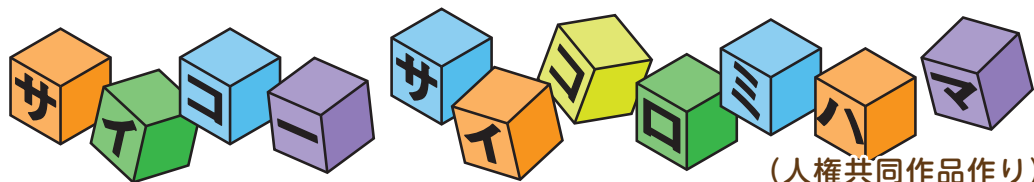
また、これまでに受講した同様の講演でも共通して言われていた「SNSの普及に伴い、人権問題が増加している」中、SNS等を通じて気付かないうちに人権問題に巻き込まれたり、加担してしまったりする恐れがあるということをお話いただきました。

●インターネットは便利でメリットも多いが、相手の顔が見えず、自分の名前を明かさなくてもいい場所で差別行為が生まれやすいという事は便利さや豊かさの弊害であるとも感じる。便利で豊かな世の中である反面、人々の心が貧しくなっていないか考えさせられる講演だった。今日の講座をきっかけに、部落差別の事をもっと勉強していきたいと思う。

●「差別をしてはいけない」と言っている人が何も対策や取り組みをしていないのは差別に加担していることという言葉がとても心にさざりました。教育に携わる者として、同和問題と向き合い少しでも改善できる取り組みをしたいと感じました。本日はありがとうございました。

●マジョリティの無関心が文化的暴力となって構造的暴力を生み、直接的暴力を生んでいる現実を知り、無関心であることの罪深さを感じました。「マジョリティの力添えが解決のために必要」と言われた言葉を周りの人にも伝えていくことが同和問題だけでなくあらゆる差別問題を解決していくことにもなると思います。

美浜
よいところ



12月4日からの人権週間にあわせ、共同作品作りを実施しました。

人権協では毎年、12月4日からの人権週間に合わせて、なびあすに来場いただいた多くの皆さんに参加して頂き、人権共同作品作りを行っています。

今年は「美浜よいところ サイコーサイコロミハマ」と題して、それぞれが思う美浜の最高なところをサイコロに書き、サイコロ型のオブジェの中をサイコロで一杯にする取り組みです。

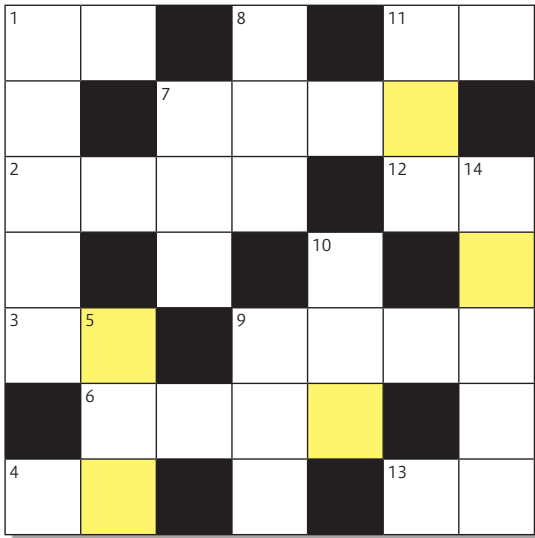
「人に出会って最高!」「景色を見て最高!」「自然を楽しんで最高!」をテーマに、家族や友人、地域の人たちと生活してやっぱり、美浜は素敵なおとこだな、「この人サイコー」「この場所サイコー」「この景色サイコー」「この味サイコー」「この雰囲気サイコー」と思う美浜をサイコロにして、オブジェに入れてもらいました。

オブジェは現在もなびあすに展示してあります。なびあすにお越しの際にはぜひともご覧いただき、サイコーサイコロづくりに参加していただけたらと思います。みんなで美浜のサイコーがつまった「サイコーサイコロミハマ」を作り上げていきましょう。



「ふれあい」第69号をお読みにになった読者の方より、多数のおたよりが寄せられました。ありがとうございます。紙面の都合上、その中のいくつかを紹介します。これからもみなさんの「声」をお届けいただけると幸いです。

- ◆「幸せ」、人・家族・地域によって、それぞれの形があるという人権コラムの言葉にとってもハッとしました。家族や地域のみなさんがそれぞれの幸せを見つけられるよう、個々人の話し合いや人権協での活動を続けていくことが大切ですね。(N・Eさん)
- ◆人権について考えることが普段ない中で、美浜町の活動から、人権について考えられる良い会報だと感じました。特に今回の人権コラムは、主婦としてとても身近に感じる内容で興味深かったです。これからの会報も楽しみにさせていただきます。(Y・Dさん)
- ◆もう少し若い頃、お店で駄々をこねて泣き叫ぶ子どもを見ると、どうして泣き止ませないのか、親は何をしているのか…と思ったものでした。今、子育てをしていて、息子の同じような状態に直面し、そう簡単なものではないと痛感します。「子育て」という経験は編集後記にあった「人権感覚」のアンテナを、少し高くしてくれたように思います。これからも、いろんな経験や出会いを大事にしていきたいです。(U・Kさん)



■ 応募方法 ■ (郵送、FAX、E-mailいずれかでお願いします)

- 答え・住所・氏名を別紙とじこみ用紙に書いて下記までお送り下さい。
〒919-1141 美浜町郷市 29-3 生涯学習センターなびあす内 人権協事務局
※ FAX(0770-32-1222) E-mail(jinkenkyo@town.fukui-mihama.lg.jp)
- 〆切は、令和2年5月29日(金)です。(当日消印有効)
- 正解者の中から抽選で、図書カードをお送りします。
- 前号の人権クロスワードの正解は「キョウリョク」でした。
たくさんのご応募、ありがとうございました。正解者は8名でした。
今回の当選者は 竹村 有美さん 山農 大輔さん 田中 和子さん
万谷 章人さん 増田 吉裕さん

以上の皆さんです。おめでとうございます！

人権クロスワードパズル

黄色のわくの中の文字を使ってできる言葉が答えです。



タテのカギ

1. 「私」や「彼」、「ここ」など、特定の名称を使わずに表現する語のこと。
5. 旗魚と書く、上あごが剣のように長く伸びている魚。
7. 商品の生産に必要な費用または原価のこと。
8. 日本の伝統的な履物で、鼻緒があります。
9. 相撲の力士の呼び名のこと。
10. 空から降ってくる氷の粒や塊のこと。
11. 鉛筆の芯やダイヤモンドはこれから出来ています。
14. 健康維持等のためにゆっくり走ること。

ヨコのカギ

1. 「記憶の固執」などで知られるスペインの画家。
2. 2階から差しても効果がありません。
3. 草食性で胃を4つ持つ哺乳類。オスにはツノがあります。
4. 電車の乗り降りをするところ。
6. 車をゆっくり走らせること。
7. 地球が太陽の周りをまわること。
9. 9×9の盤上に各20枚の駒を並べて対戦する遊び。
11. 酒などを入れて蓄えたり持ち運んだりする木製の容器。
12. 性的思考・性自認のこと。
13. 中国原産で体長25～30cmの犬の種類。

編集後記

◆今、学校では福祉についても学習を進めています。そこでまず習うのは、ふ・く・しとは、㊦だんの・㊧らしの・㊨あわせということです。年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、普段の暮らしがみんな幸せでありますように願って様々な活動を行うことが福祉です。◆障がいというのは、かわいそうなことではなくて、個性の一つだという考え方があります。ただ、単純に障がいを個性だと言ってしまうと危険なこともあります。個性なのだからすべてを健常者と同じように考えれば良いとしてしまっは、まだまだ生活しづらい状況が多々あります。◆「ノーマライゼーション」という言葉をご存知でしょうか。障がい者の特徴や特性を理解し、障がい者が暮らしやすい環境をつくり上

げることです。そのためには、障がい者と健常者はどのような点が異なり、どのようなシチュエーションで不便さを感じるのかなど、障がい者の視点に立つことが重要です。社会の中にある「障害」がなくなったときに障がいを個性だと言えるようになるのだと思います。◆社会福祉協議会の方にお世話になって子どもたちは高齢者の疑似体験をします。手足が動きにくくなること、耳が聞こえづらくなること、目が見えにくくなることなどの体験を通して、不自由さへの理解を深めます。最初は嬉々として取り組む子どもたちですが、次第にその大変さに気づき始めます。この気づきこそがノーマライゼーションへの大きな一歩です。◆すべての人の普段の暮らしが幸せでありますように…私にできることは？ (西)